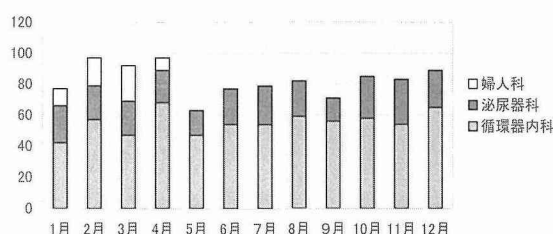


## 4階西病棟をふりかえり

4階西病棟看護科長 田中 直子

私が4階西病棟に異動となり9カ月過ぎ、今回、平成20年を振り返ると、忙しい1年だったように感じた。4階西病棟は3月までは循環器内科・泌尿器科・婦人科の3科の病棟でした。4月から病棟編成に伴い婦人科病棟が他の病棟に移動し2科の病棟での運営となった。病棟の稼動状況は、入院は月平均82名、少ない月では66名、多い月は97名であった。（表1）夜間の臨時入院は8名～11名、転科入においては月6～9名程度。10月にICU病棟が新設されてから月10名前後の患者がICUから転入した。

表1 4階西病棟月別入院患者数



### 平成20年病棟目標評価と今後の課題

#### 1. 患者が必要としている看護を安全・確実に提供できる技術習得する

##### ①『ICLS』に参加する

道内で行なわれる『ICLS』の講習会に19名参加することができた。一月に2～3名の職員を採用して頂けた結果、病棟において68%の参加率になった。まだ参加されていない職員がいるため全員が終了するまでこの目標は次年に継続する。

##### ②キネステックを身につける

北海道看護協会上川北支部の研修に2名参加して、病棟内にて伝達講習を行なった。体位変換・車椅子への移乗等普段行なっている看護行為がスムーズに行なう事ができた講習会で好評でした。

その他、病棟の勉強会を年7回開催し参加率は75%～80%に及んだ。今後も疾患の理解を深め日々研鑽したい。

#### 2. 退院後の生活に向けて、病状が悪化・進行しないような生活指導を行なう

退院後患者・家族が、実施・継続できる方法を患者・家族と共に相談の上、退院後地域社会で長期生活できるように継続看護の充実に向けた取り組みとして、疾患に関するパンフレットの見直しを行なった。

しかし、継続看護の充実に向けた取り組みについては、病棟内での指導に留まり外来との関わりが不十分であった。今後は継続看護依頼用紙の見直しや合同カンファレンスの実施を行ない継続看護の充実を図りたい。

#### 3. 申し送りを廃止し記録の充実を図る

申し送りを廃止したために患者情報は記録等から自ら情報収集しなければならない。そのためには、次の勤務者が出勤するまでに看護に必要な内容を効率的に記載しなければならない。

しかし、時間内に記録記載ができないこともしばしばでした。書ける時に書くという意識で今後も継続したい。

また、記録の内容については不十分なために、今後は内容重視になるよう記録になるように検討し取り組みたい。

平成20年も、看護係長とスタッフの協力で病棟を運営することができました。新しい取り組みであったTQMの活動では、他部門の皆様の協力無しでは達成できませんでした。これからも患者さまやご家族に、質の高い看護を提供できるように日々精進したい。